

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2010～2012

課題番号：22243017

研究課題名（和文） 中東における紛争予防に関する学際的研究の構築

研究課題名（英文） Constructing an inter-disciplinary study of Conflict Prevention in the Middle East

研究代表者

中西久枝（NAKANISHI HISAE）

同志社大学・大学院グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：40207832

研究成果の概要（和文）：

中東の紛争では、中東の内外からの外部勢力の介入が紛争の長期化をもたらす実態が明らかになった。また、紛争防止策として、①国家再建時にすべての勢力をそのプロセスに包含すること、②イスラーム社会組織が果たす社会サービスの分配機能への着目、③難民や避難民の保護と共生のしくみを域内で構築すること、④民主化への移行期は、治安・雇用の創出・市民社会の政治参加への拡大などの課題への舵取りが紛争の再燃防止になること、などが挙げられる。

研究成果の概要（英文）：

This research project clarified how external powers both inside and outside the Middle East could often prolong conflicts. The following points should be incorporated in the policy makings: first, all stakeholders should be included in the reconstruction and reconciliation processes; second, particular attention should be paid to the role of Islamic organizations in providing social services; third, an improved protection regime of refugees and displaced persons should be constructed in the region; fourth, how to balance out the needs of people in the stability, security, employment, and their participation in politics is a key for preventing the recurrence of conflicts.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	12,500,000	3,750,000	16,250,000
2011年度	10,900,000	3,270,000	14,170,000
2012年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
年度			
年度			
総計	29,100,000	8,730,000	37,830,000

研究分野：国際関係論

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：トランスナショナル・イシュー

1. 研究開始当初の背景

中東の紛争は長期にわたるものが多い。また、中東地域の安定化は国際経済にも大きく影響する。従来の研究は、中東への外部勢力の紛争への軍事的介入による問題性に注視した研究が多いが、社会・人間開発アプローチ、市民社会の役割、域内協力による紛争緩和や再発防止策を検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、紛争後いかに国家再建を行うか、それに対してどのような復興支援をすべきか、紛争の火種となる要因をいかに緩和するかという課題に対し、中東における紛争防止システムの構築の可能性を模索する。そのために、3つの研究領域を設定する。①紛争後社会において紛争の再燃を防止するためにはどのような国家再建が必要か、②中東における地域的協力による紛争緩和、③ペルシャ湾の安定化、の3つである。

3. 研究の方法

3つの課題領域ごとに研究班を構成し、各班の担当者が、事前調査及び本格調査を中東の各担当地域で実施し、その成果を研究会、講演会、国際シンポジウムなどを通じて発表した。また成果は、研究論文、図書、国際会議プロシーディングなどの形で公開した。

- (1) 主たる講演会（海外からの招聘者による国内実施の講演会・研究会）

2010年度

- ① アフガニスタンのカルザイ大統領の講演会〔同志社大学 2010年6月7日〕、
- ② Mohammado Daraghmeh, Khaled Hroub, "Palestine Question : Current Issues and Challenges" 国際会議(同志社大学 2010年10月16日)
- ③ Seyed KMuhammad Kazem Sajjadpour, Mahmood Sariolghalam "Peace and Security in the Middle East and Regional Cooperation : From Iran's Perspective" 国際会議 (同志社大学 11月26日)
- ④ Norman Cook "Conflict Mitigation in the Middle East from the Perspectives of Lebanon, Jordan, and Palestine" 研究会 (同志社大学 11月5日)

2011年度

- ① Azzam Tamimi, Walid Mahmood Abdelnaser "Arab's Spring and Democracy in the Middle East: The Role of Islamic Forces" 講演会・研究会 (同志社大学 7月25日)
- ② Malalai Joya "Realities and Challenges in Democratization of Afghanistan: Views from Women's

Perspective"(同志社大学 10月22日)

- ③ Yoichiro Ishihara "Aid Effectiveness in Fragile and Conflict Countries -Afghanistan Case Study" (同志社大学 12月8日)
- ④ 中西久枝「なぜ今イランなのかーアラブの春とイラン・米国」講演会 (同志社大学 2013年1月28日)

2012年度

- ① AbouMuhammad Asgarkhkan "Iran's Domestic Governance and Nuclear Development" 国際会議 (5月26日)

- (2) 最終年度(2012年度)の成果の公開としての国際会議の実施

- ① 報告者: 中西久枝、末近、伊勢崎、中村、
- ② "Peace and Security in the Middle East: alternative Ways to Democratizaation" 国際シンポジウム
報告者: 中西久枝、立山良司、Norman Cook, Nursin Guney, Peter Wagner
(2013年2月16日 同志社大学)

4. 研究成果

各分担者は、それぞれの専門分野についての研究成果を、国際会議での発表、図書、論文の形で発表した。また、班別では、国家再建班は、アフガニスタンの国家再建がパキスタン、カシミールなどの周辺地域のセキュリティの問題に大きく関わっていることを明らかにした。さらに、パレスチナ問題では、特にイスラエルとハマスなどパレスチナの人々の一定の支持を得ている組織に対する政策転換の必要性が、紛争緩和に不可欠であることを実証した。地域的協力に関する班は、中東域内のパレスチナ難民の保護・帰還問題を域内で取り組むこと、イスラームNGO組織の社会的サービスの提供がもたらすプラス面を再評価する必然性などを明らかにした。またEU、AUなどの紛争緩和の枠組みは中東地域での地域協力体制に選択的にでも取りこまれる意義が明示された。ペルシャ湾の安定化については、イランの核開発問題がシリア情勢など中東での長期化しつつある紛争とリンクしている実態、湾岸地域においてオムニバランス論を適用することの意義と限界などを明らかにした。総じて、紛争防止と紛争緩和策に必要な条件と要因が具体的に提示された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 40 件)

1. 中西久枝, Nuclear Impasse of Iran and Its Impact on the Gulf Security, Proceedings of International Conference on Conflict Prevention in the Middle East, 査読無, 2013, pp. 32-34.
2. 北澤義之, 東アラブ地域パレスチナ難民の現状と課題, 京都産業大学 世界問題研究所紀要, 査読無, 28 巻, 2013, pp. 37-56.
3. 中村覚, サウディアラビアによるシリア危機への対応——中東域内政治と予防外交の観点から, 中東研究, 査読無, 516 巻, 2013, pp. 44-57.
4. 嶋田義仁, サハラ砂漠の政治人類学—マリ北部独立運動をめぐる—, 情況, 査読無, 3・4 月合併号, 2012, pp. 71-86.
5. Shigeru Otsubo & Dartanto, T., Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty: Absolute, Relative, and Subjective Poverty in Indonesia, Japan International Cooperation Agency Research Institute Working Paper Series, 査読有, No. 54, 2012, pp. 1-42.
6. 中西久枝, イラン・シリア関係の推移と今後のシリア情勢, 中東研究, 査読無, 516 巻, 2012, pp. 27-34.
7. 中西久枝, 中東民主化プロセスにおけるイスラーム主義と政治モデルの考察, Journal of Global Studies, 査読有, Vol. 3, 2012, pp. 3-22.
8. 中西久枝, イラン禁輸処置と米国・イラン関係の射程, 中東研究, 査読無, No. 513, 2012, pp. 53-60.
9. 内藤正典, 中東の政治変動とトルコ, 海外事情, 査読無, 第 60 巻 9 号, 2012, pp. 2-15.
10. 内藤正典, 中東変貌の展望—「アラブの春はイスラーム主義者にハイジャックされたのか」, 中東研究, 査読無, 514 巻, 2012, pp. 7-14.
11. 立川良司, 不確実性の増大に懸念強めるイスラエル, 海外事情, 査読無, 60-1 巻, 2012, pp. 17-30.
12. 末近浩太, Undemocratic Lebanon?: The Power-sharing Arrangements after The 2005 Independence intifada, Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities, 査読無, No. 4, 2012, pp. 103-131.
13. 中西久枝, 中東の市民社会運動とイラン・米国関係の規定要因の変化, 中東研究, 査読無, No. 511, 2011, pp. 31-38.
14. 内藤正典, トルコはいかにして外交上の

プレゼンスを飛躍的に高めたか, 外交, 査読無, Vol. 60, 2011, pp. 134-149.

15. 内藤正典, トルコの内政変動と外交, 中東研究, 査読無, No. 510, 2011, pp. 25-32.
16. 内藤正典, アラブ民主化運動とイスラーム, 神奈川大学評論, 査読無, 69 巻, 2011, pp. 48-56
17. 末近浩太, “Arab Nationalism Twisted?: The Syrian Bath Regime’s Strategies for Nation/State- building: Yusuke Murakami, Hiroyuki Yamamoto and Hiromi Komori (eds.), Enduring States: In the Face of Challenges from Within and Without, Kyoto University Press, 査読有, 2011, pp. 84-98.
18. 末近浩太, テロ組織が正当になるとき: 第二共和制の成立とヒズブッラーのレバノン化, 立命館国際研究, 査読無, 24-1 巻, 2011, pp. 67-100.
19. 北澤義之, アラブ・ナショナリズム再考—フスリーのナショナリズム思想に寄せて—, 京都産業大学論集人文科学系列, 査読有, 44 巻, 2011, pp. 38-65.
20. 北澤義之, アラブ・ナショナリズム再考—フスリーのナショナリズム思想に寄せて—, 『京都産業大学論集』人文科学系列, 査読有, 第 44 号, 2011, pp. 38-65.
21. 吉川元, 分断される欧州安全保障共同体—安全保障戦略をめぐる対立と相克の軌跡, 『国連研究』日本国連学会編, 査読無, 第 12 号, 2011, pp. 95-122.
22. 吉川元, Good Governance and the Challenge of Asia “Wiener Blatter Zur Friedensforschung”, No. 144, 2010, pp. 19-33.
23. 末近浩太, 巨星墜つ, ファドルッラー師逝去, 季刊アラブ, 査読無, 第 134 号, 2010, pp. 26-27.
24. 立山良司, イスラエルの対イラン政策—『脅威』の拡大と新たな問題, 国際問題, 査読有, 第 596 号, 2010, pp. 30-38.
25. 中村覚, 中東・南アジア地域の安全保障問題におけるインドの意義, 中東協力センターニュース, 査読無, 2011, 2010 年 12 月/2011 年 1 月, pp. 71-76.
26. 中村覚, グランドビジョンを喪失した中東政治と日本, 修親, 査読無, 7 月号, 2010, pp. 18-22.

他 14 件

[学会発表] (計 38 件)

1. 中西久枝, Key Note Lecture: Reconstructing Alternative Ways for Conflict Mitigation in the Middle East, International Conference on Peace and Security in the Middle East: Alternative Ways to Democratization,

- 2013年2月16日、同志社大学志高館。
2. 立山良司、Failure of the Isolation Policy against Hamas、Peace and Security in the Middle East: Alternative Ways to Democratization、2013年02月16日、同志社大学志高館
 3. 中西久枝、Some Thoughts on Democratization in the Middle East, Current Issues on the Middle East (招待講演)、2013年3月13日、インドネシア文明間の対話研究センター。
 4. Shigeru Otsubo、Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty: Absolute, Relative, and Subjective Poverty, International Experts Working Group for Post-MDGs Development Paradigm (招待講演)、2013年1月29日、Thimpu, Bhutan.
 5. 嶋田義仁、現在のマリ危機の歴史的背景、シンポジウム「マリ共和国の危機を振り返るー背景と展開」、2013年1月26日、京都精華大学。
 6. 中村覚、新オムニバランス論と予防外交の課題: サウディアラビアのシリア政策を事例に、立命館アジア太平洋大学 (APU) 研究部社会連携セミナー: 中東政治学のリサーチデザイン、2012年12月15日、立命館アジア太平洋大学。
 7. 中村覚、「アラブの春」以降のサウディアラビアの諸改革、2012年度史学会、2012年12月09日、九州大学。
 8. Satoru Nakamura、Omni balancing Theory and the Possibility of Preventive Diplomacy: Case of Saudi Arabia, International Conference on Conflict Prevention in the Middle East: Searching for Alternative Ways, 2012年11月09日、イスタンブール旧総領事館。
 9. Kota Suechika、Social Services and “Resistance Society” of Lebanon’s Hizbollah, International Conference on Conflict Prevention in the Middle East: Searching for Alternative Ways, 2012年11月09日、イスタンブール旧総領事館。
 10. Yoshiyuki Kitazawa、Challenges of the Protection of Palestinian Refugees, International Conference on Conflict Prevention in the Middle East: Searching for Alternative Ways, 2012年11月09日、イスタンブール旧総領事館。
 11. Kenji Isezaki、Dilemma of the Security Sector Reform in Afghanistan: Lessons for Post-Arab Spring, International Conference on Conflict Prevention in the Middle East: Searching for Alternative Ways, 2012年11月08日、イスタンブール旧総領事館。
 12. Shigeru Otsubo & Hirano Y.、Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization: Time Dimensions and the Control Factors of the Impacts of Integration, The 13th International Convention of the East Asian Economic Association, 2012年10月20日、Technological University, Singapore.
 13. 末近浩太、グローバル不況と中東の政治変動」(共通論題「グローバル不況と政治変動、日本国際政治学会 2012年度研究大会、2012年10月20日、名古屋国際会議場。
 14. 立山良司、「アラブの春」と「保護する責任」: リビアとシリアの比較、日本国際政治学会 2012年度研究大会部会7『保護する責任論』再考、2012年10月20日、名古屋国際会議場。
 15. 嶋田義仁、The Inner Delta of the Niger in Mali and its Eco-Human Complex Production System, The 2nd Oxford Interdisciplinary Desert, 2012年3月29日、Oxford University, UK.
 16. 嶋田義仁、伝統様式の崩壊と再宗教動態研究の3年間、第6回アフリカ宗教学国際シンポジウム『再生としてのアフリカ独立50年』、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「伝統様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカの宗教動態、2012年2月18日、名古屋大学文学研究科。
 17. 中西久枝、なぜ今イランが問題なのかーアラブの春とイラン・米国、グローバル・スタディーズ学会、2012年1月18日、同志社大学グローバル・スタディーズ研究科。
 18. 中村覚、サウディアラビア王国による中東域内安全保障政策 (2001~2011)、JETRO-IDE 中東政策提言研究会、2012年1月13日、JETRO 東京本部。
 19. 中西久枝、Iran’s Security Policy since 9.11: Special Emphasis on the Stabilization of the Middle East and Nuclear Negotiations, Annual Meeting of Middle East Studies, 2011年12月2日、Washington D. C., USA.
 20. 末近浩太、中東のエネルギー政治と市民社会: 2011年『アラブの春』への一視座、立教大学法学部シンポジウム「原発・エネルギー政治と市民社会: 日本・ドイツ・中東の選択」、2011年11月27日、立教大学。
 21. 嶋田義仁、黒アフリカ・イスラーム文化、

- 第5回アフリカ宗教学国際シンポジウム『再生としてのアフリカ独立 50 年』、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「伝統様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカの宗教動態、2011年11月27日、名古屋大学文学研究科。
22. 嶋田義仁、2015年のアフリカ合衆国建設をめぐる、第4回アフリカ宗教学国際シンポジウム『再生としてのアフリカ独立 50 年』、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「伝統様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカの宗教動態、2011年10月8日、名古屋大学文学研究科。
 23. 中村覚、予防外交と人間の安全保障、対話を通じての平和構築学会、2011年10月8日、アラブ・イスラーム学院。
 24. 末近浩太、東アラブ地域のイスラーム主義運動にとっての10年、WIAS-TIAS-KIAS 共催シンポジウム「10年目の9.11：国際社会とイスラーム世界はどう変わったか」、2011年9月11日、早稲田大学。
 25. 中村覚、中東民主化運動の波と新しいイスラーム地域研究、神戸イスラーム地域研究会、2011年6月9日、神戸大学国際文化研究科。
 26. 中西久枝、Middle East Security and Turkey-Japan Cooperation、Turkey-Japan Cooperation for Peacebuilding in the Middle East(トルコ・ORSAMとの共催)、2011年3月23日、Ankara, Turkey.
 27. 立山良司、The Palestinian Question, Afghanistan and a New Middle East : Challenges to Japan and the International Community”, Turkey-Japan Cooperation for Peacebuilding in the Middle East (トルコ・ORSAMとの共催)、2011年3月23日、Ankara, Turkey.
 28. 中村覚、9・11以後のサウディアラビアの中東域内安全保障政策(2001～2010)、国際安全保障学会 2010年度年次大会報告、2010年12月5日、慶應義塾大学日吉キャンパス。
 29. 末近浩太、If Not Authoritarianism nor Democracy, then What? : Lebanese Power-sharing Arrangements after the 2005 Independence intifada, IAS 3rd International Conference, “New Horizons in Islamic Area Studies : Continuity, Contestations and the Future”, 2010年12月19日、京都国際会議場。
 30. 中西久枝、Searching for A New Perspective on the Conflict Mitigation in the Middle East” A New Perspective on the Conflict Mitigation in the Middle East : From a Perspective of Lebanon, Jordan and Palestine、2010年11月6日、同志社大学 博遠館。
 31. 北澤義之、ヨルダンの言語教育とナショナリズム-フスリーの教育思想との比較において、教育史学会、2010年10月10日、早稲田大学。
 32. 中村覚、オムニバランシング論の研究：第三世界諸国の勢力均衡パターンの理論的考察、日本国際政治学会 2010年度研究大会報告、2010年9月29日、札幌コンベンションセンター。
 33. 中村覚、Security Environments Fabricating Difficulties to Adapt the European Model of Preventive Diplomacy in the Middle East, Proceeding paper for 8th AFMA (Asian Federation of Middle East Studies Association) Conference, 2010年9月25日、Beijing, China.
- 他5件
- 〔図書〕(計 32件)
1. 北澤義之、ミネルヴァ書房、木村雅昭／中谷真憲編：覇権以降の世界秩序-海図なき時代と日本の明日-、2012、214-216頁。
 2. 中西久枝(吉川元・中村覚編)、信山社、中東の予防外交、2012、175-192頁。伊勢崎賢治(吉川元・中村覚編)、信山社、中東の予防外交、2012、215-239頁。
 3. 末近浩太(吉川元・中村覚編)、信山社、中東の予防外交、2012、215-239頁。
 4. 北澤義之(吉川元・中村覚編)、信山社、中東の予防外交、2012、263-284頁。
 5. 北澤義之(木村雅昭・中谷真憲編)、ミネルヴァ書房、覇権以後の世界秩序、2012、190-199、210-216頁。
 6. 吉川元・中村覚編)、信山社、中東の予防外交、2012、33-59頁。
 7. 立山良司(吉川元・中村覚編)、信山社、中東の予防外交、2012、125-141頁。
 8. 中村覚・吉川元編、信山社、中東の予防外交、2012、3-29頁。
 9. 中村覚 監訳・須藤 繁(翻訳)、辻上 奈美江(翻訳)、明石書店、21世紀のサウジアラビア：政治・外交・経済・エネルギー戦略の成果と挑戦、2012、766頁。
 10. 末近浩太(酒井啓子編著)、有斐閣、中東政治学、2012、81-94頁。
 11. Hisae Nakanishi & Elisa Montiel, Graduate School of Global Studies & CISMOR, Doshisha University, International Conference on Conflict Prevention in the Middle East:

- Searching for Alternative Ways (Proceedings), 2013, 48 頁。
12. 中西久枝 (内藤正典・岡野八代編著)、ミネルヴァ書房、グローバル・ジャスティスー新たな正義論への招待、2013、258 頁。
 13. 内藤正典・岡野八代編著、ミネルヴァ書房、グローバル・ジャスティスー新たな正義論への招待、2013、258 頁。
 14. 嶋田義仁、岩波書店、砂漠と文明：アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明論、2013、282 頁。
 15. 嶋田義仁 (石山俊・縄田浩志編)、昭和堂、ポスト石油時代の人づくり・モノづくり、2013、59-103 頁。
 16. 中西久枝・児玉克哉・佐藤安信、有斐閣、はじめて出会う平和学-未来はここからはじまる(改訂版)、2011、109-126、209-225 頁。
 17. 中西久枝、日本経済新聞社、戦略原論(平和思想)(石津朋之・永末聡・塚本勝也編著)、2011、367-383 頁。
 18. 大坪滋、勁草書房、木村宏恒・近藤久洋・金丸裕志編『開発政治学入門：途上国開発戦略におけるガバナンス』、2011、52-79 頁。
 19. 内藤正典、集英社新書、イスラーム癒しの知恵、2011、195 頁。
 20. 嶋田義仁、勉誠出版、シャーマニズムの諸相、2011、216 頁。
 21. Yoshito Shimada(Sam Maghimbi, Isaria N. kimambo, Kazuhiko Sugimura Eds), Dar es Salaam University Press, Contemporary Perspectives on Moral Economy, Africa and South East Asia, 2011, pp.123-132.
 22. 嶋田義仁 (篠田知和基他 (共著)、楽浪書院、神話・象徴・図像、2011、105-111 頁。
 23. 中村覚、国書刊行会、水谷周 (編著) アラブ民主革命を考える、2011、236-252 項。
 24. 北澤義之、明石書店、松本弘編：中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック、2011、134-151 頁。
 25. 中西久枝、明石書店、中東・北アフリカのディアスポラ(駒井洋監修・宮治美江子編)、2010、126-145 頁。
 26. 伊勢崎賢治、かもがわ出版、アフガン戦争を憲法9条と非武装自衛隊でおわらせる、2010、138 頁。
 27. 伊勢崎賢治、NHK 出版、国際貢献のウソ、2010、208 頁。
 28. 北澤義之、人間文化研究機構地域研究推進事業「イスラーム地域研究」東京大学拠点、中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック 2010(松本弘編)、2010、

107-120 頁。

29. 嶋田義仁、創成社、黒アフリカ・イスラーム文明論、2010、330 頁。
- 他 3 件

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中西 久枝 (NAKANISHI HISAE)
同志社大学・大学院グローバル・スタディーズ研究科・教授
研究者番号：40207832

(2) 研究分担者

内藤 正典 (NAITO MASANORI)
同志社大学・大学院グローバル・スタディーズ研究科・教授
研究者番号：90257767

嶋田 義仁 (SHIMADA YOSHIHITO)
名古屋大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：20170954

伊勢崎 賢治 (ISEZAKI KENJI)
東京外国語大学・大学院地域文化研究科・教授
研究者番号：30350317

大坪 滋 (OTSUBO SHIGERU)
名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授
研究者番号：40247622

末近 浩太 (SUECHIKA HIROTA)
立命館大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：70434701

北澤 義之 (KITAZAWA YOSHIYUKI)
京都産業大学・外国語学部・教授
研究者番号：90257767

吉川 元 (KIKKAWA GEN)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：0153141

立山 良司 (TATEYAMA ROJI)
防衛大学校・総合安全保障研究科・教授
研究者番号：20545818

中村 覚 (NAKAMURA SATORU)
神戸大学・大学院国際文化研究科・准教授
研究者番号：0359867